

西東京市役所 インターンシップ (児童館ランチタイム)

プログラム概要	: 子どもたちと遊ぶ・ランチ補助・児童館の掃除・職員の手伝い
実習先	: ひばりヶ丘北児童センター・保谷第一小学校・住吉学童
実習先情報	: 〒202-0002 東京都西東京市ひばりが丘北1丁目6-8
参加人数	: 3名
学部学科	: 教育学科、幼児教育学科
実習期間	: 令和5年8月7日～8月22日
本学担当教員	: 國吉正彦

○はじめに

- ・ランチタイムの活動から孤食の現状について知り、適切なコミュニケーションを取る。また子供達と楽しく食べる時間を共有すること
 - ・職員の方の説明を聞き、現場で働く大変さや責任感を学ぶこと
 - ・何事も積極的に行動する
 - ・あいさつを大事にする、聞く姿勢を美しく、状況にあった言葉を意識するといった基本的な事を子どもたちとの関わりを通して学ぶこと
- これらのことを心掛けて活動した。



○実習内容

館内のアルコール消毒・ランチタイムの指導・子どもたちの遊び指導・児童館周辺の掃除・館内掃除

○経験したこと、学んだこと、など

- ・今回の実習でのランチタイムでは、あまり適切なコミュニケーションはできなかったものの、共食といった一緒に食事を楽しむ機会があることの大切さを知ることができた。また、食事中も一人一人の児童を見守り、寄り添うことで責任感や配慮の仕方なども学ぶことができた。
- ・児童たちが自主的に遊びのルールや役割りを決めて楽しく遊んでいた。その過程で児童たちがどのように考えたり話し合ったりしたのかを観察してみると、自ら積極的に発現したり、他の子の意見を尊重したり、時には譲り合っていることに気づいた。
- ・児童達のトラブル対応の場面に遭遇すると、どう対処すれば良いのか迷ってしまうことがあったが、職員の方の助言により、少しずつ自信を持って対応できるようになった。

○今後の展開、今後の学び、など

コロナの影響により黙食、孤食になってしまっているが、一人で食べるごはんと他の人と時間を共有して食べるごはんでは時間の有意さが変わってくると考えているためランチタイムの指導に関われたことはコロナ禍において、とても重要だと感じた。そして、たくさん子どもたちと関われたことで子ども一人一人の個性があり接し方を変える必要があることに改めて気づけて、今後より多くの子どもたちと触れ合う機会があると思うので、この経験を活かしていきたい。

○まとめ

各々の目標の達成に向けて、実習に励みました。今回の実習を通して、子どもたちとのコミュニケーションの仕方を学ぶことができましたと思います。普段では体験することのできないことばかりで、子どもと触れ合うことの大変さも知りました。ですが、毎日楽しく実習に取り組むことができました。とても有意義な時間になったと思います。

○担当教員コメント

本実習において、ランチタイムの持つ意義について考えることができた、また、多くの様々な個性を持つ子どもと接することを通して、その子どもにあった言葉がけの必要性を学ぶことができた。今後は、この経験を活かし、大学での学びにつなげていてもらいたい。

○実習先コメント

児童一人一人にあった対応ができていた。また、自分たちから何か出来ることはないか見つけようとする姿勢が良かった。



西東京市役所 インターンシップ (児童館ランチタイム)

- プログラム概要 : 西東京市の児童館において、西東京市の児童館では、保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のためにランチタイムを開催し、楽しく食べる時間を共有する。また、終日児童館業務に従事し、子どもたちの現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ。
- 実習先 : 西東京市新町児童館
- 実習先情報 : 緑豊かな多摩湖自転車歩行者道に近い、閑静な住宅街の中で運営される児童館。1階は福祉会館、2階は児童館の複合施設となっている。
- 参加人数 : 3名
- 学部学科 : 教育学科、幼児教育学科、日本文学文化学科。
- 実習期間 : 令和5年8月7日～8月31日
- 本学担当教員 : 國吉正彦

○はじめに

私たちは働く現場に実際に赴き、人との繋がりや支え合い、頼りあいがあるって私たちの日々の暮らしが成り立っているというのを学ぶことを実習の目標とした。児童館で実習をさせてもらったことにより、今世の中で浮き彫りになっている子ども達の孤食問題をより身近に感じ、自分には何ができるか考えるきっかけになった。また、子ども達と同じ目線で話し遊ぶことやひとりひとりの子どもの特徴をつかみ指導することで互いの成長に繋がったと考える。

○実習内容

- ・館内や児童が使用した遊具・本の消毒
- ・ランチタイムの準備・指導
- ・工作の補助
- ・子どもの遊び指導

○経験したこと、学んだこと、など

今回の実習では、お盆休みの期間が実習期間に重なったこともあり、ランチタイム利用者の数に大きく開きがあった。日によって利用者の顔ぶれも異なったが、全体を通じてにぎやかなランチタイムを過ごすことができた。大学生と一緒に昼食をとるといことで初めは児童たちにも戸惑いが見られたが、一緒に食事をする中で会話を進めるにつれてこちらから話題を提示せずとも色々なことを話してくれるようになり、子どもたちと親密な関係築くことができた。実習の初めの頃は、どの程度厳しく指導するべきかわからず、13時を過ぎてまで昼食をとってしまう子がいたが、厳しく指導する前に時間を意識させるような声掛けをすることにより食べるペースを子どもたち自身で考えてくれるようになった。このことは、子どもだけでなく私たちの成長にも繋がり、どのように接したらいいのかを考えて指導する大切さを学ぶことができた。また、児童館の先生方から子ども達一人一人の性格や特徴、普段の様子を教えていただき、子どもによって距離感や指導の仕方などを少しずつ変えながら活動できた。また、子どもたちとの会話の中でコロナによる黙食が彼らの当たり前になってしまっていることを実感し、食事中の他者との会話を存分に楽しむ経験を共有できるように尽力した。

○今後の展開、今後の学び、など

子ども達とただ遊ぶだけでなく、みんなが楽しめるにはどうしたらいいのか、ルールを守って遊ぶにはどういう声掛けが必要なのか学ぶことができた。これらのことは現場でしか学ぶことができないため貴重な経験となった。私たちは、教員や保育士・幼稚園教諭を目指しているため、今回の実習は私たちにとって将来活かせる経験であると考えます。

○まとめ

今回の実習で、児童館で働く人の姿を見て、実際に一緒に働かせていただき、社会や働く現場というものを身近に感じた。また、普段子どもの孤食問題に触れる機会がなかったので考えを深めるきっかけになった。ランチタイムをメインとした実習だったので、ひとりで食べるよりみんなで食事をする楽しさを知ってもらい、子ども達の寂しさを軽減することができていたらいいと思う。子ども達の個性を重視しながら指導することは難しかったが、その方法を模索して児童にとって楽しい時間になるよう考えることができた。11日間という長い実習だったが、自分の成長にもつながる貴重な経験となった。

○担当教員コメント

児童館の仕事を体験することにより、働くことの意義について知ることができた。子どもの食事の課題は、孤食等の問題とも関連していることを実際として考えることができた。また、子どもとの関わりでは、一人一人の個性を踏まえることの必要性を学ぶことができた。この経験を活かし、今後の大学での学びにつなげていってもらいたい。

○実習先コメント

永山：「児童の性格を考慮した指導」「同じ目線で話す、楽しむ」「沢山のことに関わる」と掲げた目標3つは児童館職員としていつも備えていたい3つです。大切なことに気が付けています。（館長永田先生より）

高山：初日から子供たちに困まれ、積極的にいろいろなことをこなしてくれました。この実践を次に生かしてください。（館長永田先生より）

瀧上：全体を通じて自分の意志がはっきりしている子たちの中に上手に入ってくれました。話を聞いてあげること、ある程度の距離から温かく見守ることなどはとても大切に、子どもたちは勇気をもらったと思います。（館長永田先生より）

西東京市役所 インターンシップ (児童館ランチタイム)

プログラム概要	:	保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のために、夏休み期間ランチタイムを実施し楽しく食事をする、児童館業務
実習先	:	西原北児童館
実習先情報	:	乳幼児から高校生年代までを対象に、遊びを通じて子どもたちの健全育成を図るために設けられた施設
参加人数	:	3名
学部学科	:	教育学科、幼児教育学科
実習期間	:	令和5年8月7日～8月31日
本学担当教員	:	國吉正彦

○はじめに

- ・多くの子どもと関わり、適切なアプローチの仕方やコミュニケーション方法を学ぶこと。
- ・児童との関わりを通して、幼児と児童の生活の様子の違いを学ぶ。
- ・心を開いてもらうため、声のかけ方や表情を常に意識し、コミュニケーションを積極的に取っていく中で、子どもにとってどのような先生や保育者が必要かを考える。

○実習内容

- ・環境整備（消毒、清掃）
 - ・ランチタイム指導
 - ・子どもの遊び指導（児童館、学童）
- ex) カードゲーム、ボードゲーム、ドッチボール、バスケ、バドミントン、卓球
 工作、伝承遊び
- ・イベントの補助（片手ブンブンごま、ミニバスケット）



○提案したこと、発信したこと、など

- ・遊びの幅を広げた。(折り紙の面白さを伝えた)
- ・数人でゲームをする際に順番を守ったり、他の子を思いやることの大切さを教えた。
- ・「できるようになりたい」と感じていることを達成させるために、チャレンジすることや練習することの大切さを伝えた。

○経験したこと、学んだこと、など

- ・児童館を利用するのは小学校低学年の子どもたちというイメージがあったが、今回の実習で高学年の子や中学生さらに未就学の子とも関わり幅広い年齢の子どもたちが利用できる場であることを知った。様々な年齢の子どもたちが同じ空間で活動することで異年齢の交流も見られ、学校では見られない子どもたちの姿から児童館の良さ、異年齢集団の良さを学んだ。

・子ども同士のもめ事やトラブルがあった際、先生方がどのような声掛けをしているか実際に見ることができ、子どもたちに対しての適切な指導を学ぶことができた。

・怪我や喧嘩を防止するために、児童館独自の規則や先生方の様々な配慮があることを知った。

○今後の展開、今後の学び、など

・児童館という子どもたちが遊びや友達と関わることを通して成長できる場があることを知った。多くの子どもたちが利用できるようにこういう場があることをもっと広めていきたい。

・様々な特性や個性を持った子どもと関わることができ、柔軟な対応方法を身に付けることができたので、今後それを活かし多くの子どもと関わっていきたい。

・小中学生の子どもの中で流行しているものや興味がある事柄などをあまり知らなかったため、話を広げてあげることができない場面があった。子どもの気持ちに寄り添って、共感してあげるためにも知る努力をする必要があるということに気づくことができた。

○まとめ

・今回の実習を通して普段経験することのできない先生という立場となり、子どもたちと関わるすることができた。そのため、子どもたちと近い距離で関わる事ができ、多くの学びがあり、この実習はとても自分の力となる経験になったと感じる。今回の実習で一人一人が感じたことをもとに将来に活かしていきたい。

○担当教員コメント

・実習を通して、児童館の意義について知ることができた。また、様々な特性を持った子どもと接することにより、多面的な見方の必要性について学んだ。また、子どもたちの興味関心や遊びについて知ることができ、今後の子どもたちへの関わり方の手がかりを得ることができた。

○実習先コメント

・積極的に子どもと関わっている姿が見られました。今回の気づきや経験を今後活かすことを期待しています。

・児童館は0歳から18歳までの利用者があり実習の中でも様々な気づきや学びがあったと思います。この経験を今後活かしていってくださいね。



西東京市役所 インターンシップ (児童館ランチタイム)

プログラム概要	: 児童館のお仕事の手伝い ランチタイム
実習先	: 保谷柳沢児童館 (東京都西東京市)
実習先情報	: 月曜日から土曜日の午前9時15分~午後6時に開館している。0歳~18歳未満の子どもとその保護者が無料で利用できる。
参加人数	: 3名
学部学科	: 教育学科、建築デザイン学科、日本文学文化学科
実習期間	: 令和5年8月6日~8月31日
本学担当教員	: 國吉正彦

○はじめに

西東京の児童館では、夏休み期間に児童館で持参したお弁当を食べるランチタイムを行っている。保護者が労働などで不在の昼食の際に、孤食になりがちな児童が増加していることから、子供たちへの豊かな食の環境と、夏休みの居場所を確保するために実施している。

○実習内容

- ・ 来館した子供と遊ぶ
- ・ イス、テーブルのセッティング、消毒
- ・ ボードゲーム、本棚の消毒
- ・ ランチタイム
- ・ イベントの運営、お手伝い
- ・ 幼児の乗り物の消毒
- ・ 花壇の手入れ
- ・ テラス、児童館の入口、窓の掃除
- ・ トマトの苗を植える
- ・ おにぎり作りのお手伝い
- ・ 学童クラブ
- ・ 地域のお祭りの準備、片付け



○提案したこと、発信したこと、など

- ・ 子どもたちと運動をして遊んだ後は、水分補給をするように呼びかける
- ・ ゲームのルールを教える
- ・ 子どもたちに怪我をしないように呼びかける

○経験したこと、学んだこと、など

- ・ 学童クラブでは子供達との関わり方を学ぶことができた
- ・ クローバーのバック作りでは、子どもたちが完成できた時の表情で私達も嬉しくなった。また、教えることの難しさを知った
- ・ 卓球大会では子どもたちの頑張っている姿を見て元気を貰った
- ・ カブトムシ教室
- ・ 灯籠教室
- ・ ランチクッキング
- ・ 地域のお祭りの準備、片付けのお手伝い

○今後の展開、今後の学び、など

- ・ 教員になった時のために生かす
- ・ 就職の幅を広げる
- ・ 子どもひとりひとりと向き合っコミュニケーションをとることの大切さが分かった
- ・ 職員の方々に分からないことを聞いて効率よく行動することも重要だと分かった

○まとめ

最初は不安もあったが、日数を重ねるごとに子どもたちとどのように触れ合えばよいかわかってきて、毎日が充実していた。職員の方々も優しく声をかけてくれたりしたので、安心して実習ができた。幼児から高校生と幅広い年齢の子どもたちと接することができて学びの多い実習だった。

○担当教員コメント

直接子どもと接することにより、子どもは一人一人個性があり、その個性に応じたコミュニケーションを取ることの重要性を学んだ。また、職員との連携の必要性を体感した。今後の大学での学びにおいて、経験を踏まえた学習をしていてもらいたい。

○実習先コメント

- ・ 1人ひとりに目を配り、子どもたちが過ごしやすい居場所を提供することが大切
- ・ 分からないことはすぐに質問してくれて、真剣に取り組んでくれていた
- ・ この経験を今後活かしてほしい



西東京市役所 インターンシップ (児童館ランチタイム)

プログラム概要	西東京市の児童館では、保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のために、夏休み期間ランチタイムを開催している。子どもたちに昼食を楽しく食べる時間を共有できるようにすることがねらいである。
実習先	中町児童館
実習先情報	0歳から18歳未満までが利用できる施設。月曜日から土曜日まで開館。第1・3・5日曜日は日曜会館も実施している。
参加人数	3名
学部学科	幼児教育学科、教育学科、日本文学文化学科
実習期間	令和5年8月7日～8月31日
本学担当教員	國吉正彦

○はじめに

以下の通りの目標を立てて、実習を行った。

- ・ 孤食の現状を知り、学生のうちに何ができるかを知る。
- ・ 「孤食」によって、悲しんでる子供たちの気持ちをなくしてあげる。
- ・ 児童が楽しいと思える指導の方法を知る。
- ・ 子供との上手なコミュニケーションの取り方を知る。
- ・ 子供たちが家に帰った時に、「児童館で遊んだあれやりたい！」「これ作りたい！」と思えるような思い出作りに、積極的に関与する。
- ・ 1人1人の子供の違いについて知る。
- ・ 子供たちに、"子供時代にふさわしい生活"を提供する。
- ・ 教育現場で働く大変さと責任感を学ぶ。
- ・ 職員の方たちの子供への接し方を学ぶ。

○実習内容

- ・ 館内の清掃、椅子をおろすなどの開館準備
- ・ 遊びの環境整備
- ・ 子どもとの遊びへの参加
- 例：トランプ・かるたなどのカードゲーム、ドッチボール・大学落とし・卓球などのホーム遊び、マンカラ・スリングホッケーなどのボードゲーム等
- ・ 子どもへの遊び指導
- ・ 工作の準備（風車、ヨーヨー釣り）
- ・ 工作の指導（風車、ヨーヨー釣り）
- ・ イベントの企画・運営（クイズ大会）



○提案したこと、発信したこと、など

- ・ 子ども達に向けたクイズ大会を企画・実施
- ・ 壊れているおもちゃや足りないトランプがある事を報告
- ・ 新しい遊びの提案
- ・ 言い争いをしたときの解決方法の提案

○経験したこと、学んだこと

実習生だけでクイズ大会を催した際、自分たちより年齢の低い子どもたちが理解出来るのはどのような問題なのか、どのようにクイズ大会を実行していくべきかを試行錯誤しながら取り込むといった経験をした。ここから学んだこととして、まずは私たちが楽しむことが重要だということが挙げられる。クイズを作成する時点で「この問題面白い!」と盛り上がることで、子どもたちが楽しんでくれる様子をイメージしながら催し物を企画することができた。

また、クイズ大会中も、子どもたちが出した答えに対して「惜しい!」「この問題正解したチームはここだけだよ!すごい!」と積極的に声かけをすることで、子どもたちの『クイズを正解したい』と思う意欲を高めることに繋がると学んだ。



○今後の展開、今後の学び

挨拶をしっかり返してくれたり、カードゲームやボードゲームの遊び方を教えてくれたり良い子も多かったが、身体を動かすホール遊びになると口が悪くなったり、けんかが始まったりすることも多く、仲裁をしたり注意するのが大変で、けがをさせない・全員が心地よく過ごせる環境を作るための職員の方たちの苦勞を感じる事が出来た。

学童が併設しているため1日に2回学童の子達が児童館の方に来ることがあり、学童に通う子と児童館に来館する子の雰囲気の違いを感じた。児童館の子は公園に来るのと同じ感覚で来館するため、ジュースを買いに出かけたり、お昼を食べに一度家に帰ったり自由度が高いが、学童の子は自由に遊べる時間が少なく勉強の時間もあるため、児童館の方にご褒美みたいな感覚で来るため気持ちが爆発して、おもちゃや先生の取り合いをすることも多かった。そのため職員の方の指導の方法も異なり、状況や特色に応じた指導をすることが重要だと学んだ。

○まとめ

このフィールド・スタディーズでの毎回の実習で、自分たちにとって、新たな体験、知識、または、経験を得ることが出来た。子供たちを指導する立場、また、1人の大人としての、責任感も学ぶことが出来た。

児童館は、子供たちの遊ぶ場所としての役割以外に、児童館でしかできない経験や、学校では出来ないような異年齢とのコミュニケーションをとることが出来る場所でもあることが分かった。

○担当教員コメント

様々な子どもたちと接する体験を通して、今まで気付かなかった職員の苦勞を知ったり、子どもとの接し方を学んだ。子どもの状況を踏まえた対応することの重要性について、今後の大学等の学習を通しさらに学んでいてもらいたい。

○実習先コメント。

- ・一人一人の要望に答えられるようにする。
- ・ケガをさせない。
- ・実習生同士の連携がみれてよかった。
- ・クイズ大会ではチーム戦にすることで子ども達同士の協力が見えて良かった。また普段はまとめ役じゃない子がまとめたりしていて感動した。

西東京市役所 インターンシップ (児童館ランチタイム)

- プログラム概要 : 田無児童館で児童館全般の仕事を知り、子どもの見守りと環境整備を行う。
- 実習先 : 西東京市立田無児童館
- 実習先情報 : 0歳～18歳の子供とその保護者が無料で利用できる。図書室、工作室、字部室、乳幼児専用ルーム、遊具室が完備されている。
- 参加人数 : 3名
- 学部学科 : 教育学部教育学科、教育学部幼児教育学科、文学部日本文学文化学科
- 実習期間 : 令和5年8月7日～8月31日
- 本学担当教員 : 国吉正彦

○はじめに

私たちは田無児童館で「一人一人にあった関わり方を考える」を共通の目標として11日間実習を行った。そのために、職員の方々や子どもたちに元気な挨拶をすることや、精一杯子どもたちに向き合い理解しようとするを常々思い、且つ、各々ができることを考えながら実習の期間を過ごした。また、子どもたちの孤食をなくすためランチタイムの時間だけくる職員の方々と自分たちで子どもと楽しくお昼を食べ孤食の防止を努めた。

○実習内容

- ・開館準備(窓の開閉、椅子下げ、クーラーの稼働など)
- ・子どもたちと遊ぶ
- ・ランチタイムの準備(ランチョンマット・消毒掛け)
- ・壁画作成
- ・本の消毒、整理
- ・イベントのお手伝い
- ・館内清掃(モップがけなど)
- ・工作(フィンガーブーメラン、毛糸の小物入れ)の事前準備
- ・工作の指導
- ・他の児童館への見学



○提案したこと、発信したこと、など

- ・遊びの提案
- ・ゲーム内容の説明
- ・遊ぶ際の子ども同士の言い争いや手がでてしまった時の子どもたちへの対処
→ルールの確認や順番の確認などを子どもたちに行った

○経験したこと、学んだことなど

- ・子どもたちと関わる中、遊ぶ時間が多く最初は子どもだからといい手加減しがちだったが、きっとそれは子どもにとっては退屈で重要なのは子どもたちの楽しいを共有すること自分自身が楽しむ事が大切だと学んだ。
- ・個人を見ながらも全体を見守っていく対応力とその必要性を学んだ。この対応力は教育現場でもかなり重要になると考え全体の安全を最優先しながらも子ども一人ひとりの行動や表情をよく観察し対応したいと思った。

○今後の展開、今後の学び

今回、田無児童館で実習を行い、将来就く職業の選択肢に児童館の職員を新たに視野に入れることができた。この実習で自分たち自身で目標・課題をたて、それについて真摯に向き合うことで子どもたちが何について好奇心を抱き、興味を示すのかが学べたため、これを臨機応変に普段の生活や大学の講義に活用していきたい。

○まとめ

「一人一人にあった関わり方を考える」という共通の目標を意識しながら実習の中で起こった問題を見つけ、解決に向けて考えたり行動を起こしたりすることができた。またランチタイムでは孤食についても考えることができた。孤食には家庭環境や子どもの成長が関わるので私たちが社会や教育についてさらに考える良いきっかけにもなった。また「働く」ということに関して人と関わる職業はたくさんあるが、その中でも子どもを対象とした職業について知った。そのうえで一人一人にあった関わり方をまずは個人で考え皆で共有できたと思う。その共有の中で考えたことを将来に活かし学び続けていきたい。

○担当教員コメント

「一人一人に合った関わり方」を課題に取り組んでいた。その課題を持つことで、子ども一人一人の問題点や対応策を考えていく視点に立てた。また、孤食の問題を通じて社会との関係を捉え、単に子どもとの関わりだけでない学びが得られた。

○実習先コメント

たくさん子ども達と接したり、見守ろうとしている姿勢がよい。優しい子ども達になってもらうためには、優しく大人が接する社会となるようふるまうことが大切である。

子どもと関わる仕事は尊く、元気とエネルギーをもらえる。是非、選択肢の一つとしてください。

